

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成25年5月(2013年) No.569

OMC公開映写会は10月6日(日曜) 大阪市立中央会館で会場確保

本年度OMC映像フェスティバルは、10月6日(日曜日)に会場を確保しました。秋の休日は発表会等行事が多くて講堂を予約するのが難しいですが、くじ運よく希望の日がとれました。

この上は会員諸氏がどれだけ良い作品を準備できるかという問題です。昨年8月から今年7月迄の例会出品作品の中から、及び撮影会作品の上位受賞作品の中から選定されます。7月まではまだ間があります。自信作をつくって下さい。

■予告：OMC映像フェスティバルプログラム編成会議は、7月31日、(水曜日)13時より難波市民学習センター第1会議室にて開催しますので、幹事の方はご予約ください。

◎大阪ビデオクラブ(OVC)との合流話の課題

どちらのクラブも高齢化と共に例会出席者並びに作品数の減少に伴い、いっその事、一緒にやろうやないかという声が高まっています。それも夜はしんどいので日曜の午後で、ということでOVCは早速5月例会から第2日曜の午後を例会日として会場予約を始めています。今のところ年内はOMCは従来通りと考えていますが、12月は第4土曜は28日と大変押しつまっていて会場も休館かもしれません。そこで12月例会はOVCと合流して第2日曜の午後は如何かと思っています。そして夜は上のレストランで両クラブの人が集まり意見交換会兼忘年会はどうだろうか等と考えています。いずれにしても合併するとなると決めなければならない事が多くあります。クラブ名、略称、年間行事、会費、会計処理、会長候補、世話役人選、役割分担、広報発行等々、はっきりさせておく事項が…。ひと仕事ありそうです。皆さんも考えておいて下さい。

5月例会のお知らせ

5月例会は第4土曜25日18時より、いつもの難波市民学習センター(JR難波OCATビル4階)にて開催します。気候もよし、連休中につくられた作品などご披露して下さい。月1回の例会、楽しみにお待ちしております。

恒例の春のOMC撮影会を実施

5月4日～5日に日本六古窯の一つ信楽で撮影会を実施しました。参加者は13名、4日は昼に到着、今回お世話になった窯元「宗陶苑」で昼食、宗陶苑会長の上田さんの講義を聞いてから撮影開始。苑内の多数の作品群、ろくろ製作風景、大きな現役登り窯などを撮影。「宗陶苑」で撮影終了後は近くの使われていない古い登り釜を撮影。夜は近くの料理旅館で懇親会を行いました。翌日5日は快晴で快適な気候のもとで近くの陶器神社参道付近から町の俯瞰を撮影、その後は陶器の里信楽風景を各自で撮影した。この日は陶器まつりが開催されており、それぞれ自由に撮影を楽しみました。陶器祭りには一般観光客相手のセリ市、太鼓演奏の出し物もあり、迫力ある演奏風景が楽しめました。午後はそれぞれ自由に散会し帰路につきました。

撮影会作品の公開審査は7月27日の例会日の午後1時から行われます。撮影会参加者は全員、その他の会員さんも多数出席され公開審査にご協力をお願いします。

4月例会のレポート

今年の冬は寒さが厳しく桜の蕾に強い刺激を与えたせいでしょうか、その後の気温の上昇に連れて例年より早く開花しました。そのせいでもありませうか、桜をテーマの作品が2本出品されました。

今月の司会は合原氏、書記、前田氏、上映担当、井上、河合の両氏、録画、江村氏、受付兼照明係は宮崎、森下の両氏で進行。

◆出席者：有村、井上、江村、岡本、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉岡（敬称略）の21名。

■上映（今月の講評は前田世話役です）

1. 近江鉄道（BD）

前田茂夫 11分57秒

筆者の作品です。昨秋米原に所要で一泊二日で行った時に撮ってきました。用事は夜だけなので昼間は時間が余りすぎて持て余し近江鉄道に乗って撮って楽しんできました。鉄道ファンの一人として、人間ドキュメンタリー作品撮影のように対人関係等余計なことを考えずに電車が走るだけの動画を撮るのは最高に至福のひとつときです。

2. 綾部山梅林（BD）

進藤信男 8分57秒

たつの市御津町室津の近くの大きな梅林での撮影です。室津の港を手短に紹介し、綾部山梅林に移っていきます。途中から御津梅太鼓の演奏が披露されますが、海をバックに撮影できたらもっと雰囲気が出たのではとのコメントもありましたが、太鼓の設営上なかなかそうはうまくいかないようです。この日は黄砂が出たのでしょうか、映像の透明感が損なわれたのは惜しかったとの話もありました。ここは日本で唯一海に見える梅林ださそうです。大勢の観梅客も訪れうららかな早春を感じさせてくれるほのぼのとした作品です。

3. 春の中山寺（BD）

吉岡貞夫 8分00秒

奥さんの具合が悪いので、久方ぶりにご出席され作品を持参されました。宝塚の中山寺で桜の情景を写した作品です。作者はこれまでも節分の豆まき行事など中山寺に関わる作品をつくられています。今回は満開の桜とお寺とがテーマの作品です。青空をバックに満開の桜が咲きほころびいい風情を醸し出しています。お寺の赤と薄い桜色とが調和し美しく感じられます。撮影テクニックもロング、メイディウム、アップがテンポよく展開していき心地よく引き込まれていきます。この作品を見ると日本の桜は本当に綺麗だなと感嘆します。

4. 春がきたよ（BD）

有村 博 5分37秒

東大阪の自宅から自転車で1時間をかけて大阪城や桜ノ宮公園へ行きで満開の桜を写してこられました。青空をバックの桜はほ誠に綺麗です。大川には水陸両用バス、アクアライナーも見えて大阪らしい雰囲気です。花見客も非常に多く花見を楽しもうと夜の花見に備えてブルーシートで席取りをしているのには興味が削がれます。ブルーシートではなく普通の色の落ち着いた敷物を使って欲しいものです。ある自治体ではゴザの敷物を貸し出しブルーシートは使用禁止したとの報道をあるTVで見ました。せつかくの花見ですから災害を彷彿させるブルーシートを使って欲しくありませんね。しかし大阪の春を彩る大変綺麗な

作品でした。

5. 首都ヴァレッタ (BD)

華岡 汪 15分00秒

地中海の小国マルタの首都世界遺産のヴァレッタの観光旅行作品です。人口50万人の小国で観光が主要産業のようです。途中からカーニバルダンス大会の様子を詳しく見せてくれます。最初は子供、次に大人へと晴れやかな仮装ダンスが繰り広げられます。派手で艶やかな衣装を纏い激しく踊ります。途中では世界の楽曲を使いあきさせないような工夫が見られます。やはり観光立国らしい行事だと思いました。惜しかったのは、ナレーション録音をモノラルマイクを使ってカメラで録音したので、左側音声しか録音されず、しかも例会場の上映装置が左側音声再生不能という不運も重なってナレーションが全く聞こえなかったのは残念でした。少し気付いた点はBDのTOPメニューは不要なこと、映像のバックノイズも不要な箇所はカットしましょう。バックノイズを残した場合でも各カット替りの箇所では音のディゾルブを掛けた方が聞きやすくなります。

6. 九州筑紫野紀行 (BD)

鉄具嘉夫 14分00秒

作者お得意の万葉集の歌を紹介しながら、九州筑紫野を旅した紀行作品です。筑紫野の堀川三連水車から始まって筑後川及び筑後平野を見渡す遠望に続きます。雨の中悪い撮影条件でしたが、霧が出て情感のある風景になっています。古代史初期にあたる斉明天皇、中大兄皇子の史実をはさみながら万葉集の歌を詠んで行きます。いわゆる万葉集の筑紫歌壇の華やかな時代に入っていきそうです。大伴旅人、山上憶良等が活躍した時代だそうです。大伴旅人邸宅跡では「梅花の宴」が開かれそれ等を追いながら、万葉集の歌を紹介しさらにストーリーは展開します。さらに180年程後に菅原道真が流されてきます。このように筑紫野は支那、朝鮮に近く外交や戦の前線基地として、万葉集筑紫歌壇に代表される文化の華やかなりし頃の時代を偲んで作者はこの地を訪問されましたが、お好きな万葉集と歴史に触れられさぞさぞ満足の行く旅であっただろうと思いました。

7. 佐倉物語 (BD)

紙本 勝 8分05秒

作者お得意のお城物語紀行作品です。遠路はるばる千葉県佐倉城まで足をのぼして撮ってこられました。毎度のことながらよく歴史を調べ上げてお城にまつわる秘話を朗々と語られます。徳川家光に仕えた堀田正盛が家光に殉死したのち、家督を継いだ堀田正信がとんだ悪領主で悪役人共々領民を苦しめ、それに耐えかねた領民佐倉惣五郎が直訴するが、それを恨んだ正信が惣五郎を捕らえ子供共々斬首にするという酷い仕打ちを行いました。以来正信は惣五郎の怨霊に取り憑かれ、ついに所領没収のうえ改易の刑罰に処せられました。何とも宗五郎にとっては酷く痛ましい話です。

歴史に疎い者にとって紙本作品は歴史の勉強になります。映像的には今にない出来事を綴るので、現代作品に比べて難しさはよく理解できます。それをナレーションと今の映像(一部資料映像を使用)で観客に悲しい物語を理解させてくれる実力には脱帽します。

8. 四箇(しか)法要 (BD)

河合源七郎 11分41秒

2年前に大阪・北御堂津村別院で行われた浄土真宗の珍しい法要行事の記録です。舞楽、声明が交互に演じられます。非常に壮麗厳粛な儀式で、これを四箇(しか)法要というそうです。貴重な記録にもなっています。撮影は行事が行事だけに自由に動き回ってとっては困ると事前に注意されたようで、そのような制約の中でも舞台の上から、正面から等よく抑えられています。最後に参詣者全員の読経でおわりますが、苦勞して作られた貴重な記録作品となっています。

9. 夏の宵宮 (BD)

江村一郎 8分30秒

TOPシーンは江村さんらしい新しい手法で始まります。夜の揺らした提灯のアップ、BGMはなく子供や大人の声等周囲のノイズを使って雰囲気をもり立てようとしています。土佐赤岡町の「絵金祭り」をテーマに作者の主観を印象的に表現しようとする江村流ともいべき独特な作品です。絵金蔵という「恐ろしくて美しい」23枚の屏風を町内に飾って観てもらおう趣向の様です。幕末に高知城下から赤岡に移り住ん

で町絵師となった「絵金」こと弘瀬金蔵の屏風絵を年に一度だけ公開する習わしの様です。祭りは夜が本番で町の灯りを全て消してローソクの灯りだけで絵金を鑑賞する趣向です。絵柄にはおぞましいものも多数あって「恐ろしくて美しい」という祭りの表題になっています。真っ暗な街道を怪奇な化粧の少女が行列に加わって行進しますが、何か不気味な情景です。夜から昼に移ると、近くの神社に絵金が数枚垂れ下がってきます。この部分は町内の町屋が所有する絵金を飾りますが、その辺りに入れたらいいのではと司会のアドバイスでした。それにしても不可思議な祭でした。

10. 弥生に咲く (HDV)

森田光晴

4分45秒

弥生は陰暦3月ですから、新暦の4月頃の映像でしょうか。場所は鶴見緑地、大阪城公園と長居植物園です。この作品も快晴の日に撮影されており美しい花々がアップテンポのBGMに乗ってたくさん続きます。ただアップの花がたくさん次から次へと展開しますが、全般に短めのカットの長さが同じ位なので映像のテンポが単調になっています。超アップは短め、メリアムは少し長め、アップはその中間にすると、作品に全体にいいテンポが生じると思います。自宅で観た映像はDVコピーながら一番綺麗でした。

11. 青龍が舞う (HDV)

森口吉正

10分50秒

2年前の4月例会で発表された「清水青龍会」と同じテーマを再度撮影された作品です。青龍とは観音様の化身だそうで、夜な夜な音羽の滝に水を飲みに来る様と、人々に幸せを運ぶ観音加持を行う夜叉神への信仰が結びついて行われる法会だそうです。清水寺に伝わる伝統ある宗教祭事ですが、大阪ではあまり知られていなくて2年前に初めて観た記憶がありました。今回二度目としてこの宗教祭事を撮影された作者は、行事の様子をよく理解できておられているので的確にポイントを押さえてしっかりした作品に仕上がっています。青龍の動きも近くで撮っており大変迫力があります。境内をひととおり練った青龍は参道へと繰り出していきます。この辺りの描写も実に上手く作られています。作者お得意のナレ

ーションと相まってよく出来た素晴らしい行事の記録作品に仕上がっています。

12. 外輪船 (BD)

山本正夢

9分00秒

バン格拉ディシュのガンジス河を運行する定期旅客船の乗船の記録作品です。外輪船というとミシシッピ河や、琵琶湖の観光外輪船をイメージしますが、この定期客船は古いが現役の外輪推進方式を使った客船で今では貴重な存在なのでしょう。銘板では1928年インドで建造、1955年に蒸気機関からジーゼル機関へ改造とあります。船内風景は1等サロンから始まって1等客室、2等客室、3等客室と見せて行きます。1等2等はさすがに綺麗ですが3等はデッキ雑魚寝で満員の客が乗っています。船内では船客によるマーケットも開かれ誠に活気が溢れています。また相当な濃霧の中を進むシーンもありレーダーが備わっているのかなと余分な心配もしました。途中数箇所寄港し、最終目的地で作者は下船します。作品を見ている間中、どこからどこまで運行され何時間かかるのか気になっていましたが、この疑問は最後に明かされました。ダッカからモロルゴンチまで20時間の船旅だったそうです。いつもそうですが山本さん以外では絶対に撮れない貴重な作品です。

13. はねず梅の咲く頃 (BD)

高瀬辰雄

9分50秒

京都山科小野にある随心院で撮影された記録作品です。はねず梅とは遅咲きで3月末頃咲くはねず色(うすべに色)の梅だそうです。ストーリーは随心院の辺り、小野の里に住んでいた小野小町と深草少将との恋物語を絡めて進んでいきます。小野の里には小町と深草の少将との百夜通いの伝説が残されています。小町の元に百夜通えば恋を叶えてあげるといわれ、毎夜一里あまりの道を通ったが、百日目に凄まじい吹雪になり途中で絶命してしまうという悲しい物語があるそうです。この悲しい物語は「はねず踊り」として優雅に舞われ里の子供たちに伝えられています。優雅でしっとりとした唄と踊りですが、この「はねず踊り」がいつごろから始まって今に伝えられているのか歴史的背景がわかれば、もっと興味をそそられたと思われそうです。